

# 東京電力は3つの誓いを忘れるな！ 被災者への賠償を最後まで行え！

## 和解仲介案を拒否する東京電力

2011年の東日本大震災による福島第一原発の重大事故から約3年たった2014年1月15日、東京電力は、被災者に早く生活再建の一步を踏み出してもらうためにと、次の3つの誓いを立てました。

- 1、最後の一人まで賠償完徹
- 2、迅速かつきめ細やかな賠償の徹底
- 3、和解仲介案の尊重

大事故を起こし破産状態の東京電力が国の支援で生き延びたのは、東京電力をつぶしてしまうと被災者への補償が行えなくなるという理由からでした。しかし、事故から10年以上が過ぎ、東京電力はこの3つの誓いを忘れ去り、被災者への補償を少なく済ますことに血道をあげています。

## 2万人以上が手続き打ち切りに

福島第一原発の事故で生活を破壊された人々の多くは、とりあえず行われた補償だけでは、とてもまかない切れない被害を受けました。しかし、損害賠償を求めて裁判に訴えるのは、あまりにも大きな負担で時間もかかります。そこで、法律に基づいて、補償がすみやかに行えるようにと設けられたのが「原子力損害賠償紛争解決センター」(ADRセンター)です。11万人以上の被災者が、このセンターに和解仲介手続きを申し立てましたが、ADRセンターが提示した和解仲介案を東京電力が拒否する事が相次ぎました。

## 疲れ果て、裁判にふみ切れない被災者

東京電力は、「和解仲介案を尊重する」と誓ったはずですが、ADRセンターやセンターを所管する文部科学省は、2016年以降、東京電力に対して和解仲介案を尊重するようくり返し要請してきました。しかし、東京電力が姿勢を改めずに拒否し続けたために、和解仲介手続きが打ち切りになった案件は2万2000件にもものぼっています。打ち切られたら裁判を起こすしかありませんが、大多数の人たちは、裁判にふみ切れずにいます。その声を、「福島原発かながわ訴訟」の「原告団だより」は、「事故が起こってからずっと、東電のひどい対応に付き合わされてきた。もう疲れてしまって、がんばれない」「東電は、私たちが死ぬのを待っているのだと思う」と紹介しています。

大げさな話ではありません。浪江町住民の集団申立では、申し立てから手続き打ち切りまでの間に、238人もの方が亡くなられています。

<裏面に続く>



全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL 045-575-1948  
yuniyoko.sakura.ne.jp

## 「払い過ぎた」と主張する東電を許さない！

東京電力が、和解仲介案すら拒否するのを見て、ADR センターへの申し立てや裁判をあきらめざるをえない人はたくさんいます。にも関わらず、東電は、裁判の数が少ないのは補償が充分だから、などとうそぶいています。また、裁判の中で「実際には払い過ぎていいる」とさえ言い始めています。

福島から神奈川県に避難した人たちが、東電や国に損害賠償を求めて「福島原発かながわ訴訟」という裁判を闘っています。一番の横浜地裁では勝訴し、現在、東京高裁で審理が進められています。その裁判で、東電が被災者の実態を無視し、賠償責任を放棄しようとしている姿が明らかになっています。

同じような裁判が全国で闘われています。みなさん、注目して応援してください。

【組合員 N】



## 東京電力よ、 「3つの誓い」を忘れるな!

- 1、最後の一人まで賠償完徹
- 2、迅速かつきめ細やかな賠償の徹底
- 3、和解仲介案の尊重

### ■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオンの組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010 年 4 月）。

### ■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした 4～8 次の下請会社で稼働しています。3.11 以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40 代男性）は 2016 年 11 月 22 日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

### ■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月 11 日に街頭宣伝活動を始めて 11 年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！